



令和5年度

学校経営計画



心通わせ、夢を育み、感謝あふれる学校

瑞穂町立瑞穂第四小学校
校長 高橋 一広

1 はじめに

新型コロナウイルス感染防止対策が長期間続いている中で、子供たちはいろいろなことを我慢して日々の生活を送ってきた。学校は最善を尽くして教育活動を行ってきたが、子供の体験不足から、本来育つべき資質、能力が十分に育っていない面もある。そこで、今年度は「十分でなかった3年間を取り戻す」という考えをもって子供を育てていく。友達と交流する体験、協力して物事を成し遂げる体験などを意図的に増やし、学校教育の中で社会性や協調性等を養っていく。

教育目標「しっかり考える子」を重点目標として、「仲よくする子」「すすんで取り組む子」の育成を目指し、教育活動の充実を図る。また、「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを意識し、本校の重点課題である「学力向上」を中心に、学びに向かう「身構え・心構え・物構え」の徹底を図る。そして、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。また、多様な考え方を引き出す授業に取り組み、「学びに火をつける」指導を意識的に行う。

2 瑞穂第四小学校の教育目標

人は誰でも幸せになりたいと願う。そのためには、次の3点が重要になってくる。

- ① 人と関わり合っていく中で、心を通わせ、お互いを思いやること。
- ② 「～したい」という夢や希望をもち、それに向かって挑戦していくこと。
- ③ 夢の実現のためには、全ての人に感謝の気持ちをもつこと。

そこで、「心・夢・感謝」を合言葉に、「心通わせ、夢を育み、感謝あふれる学校」を目指す。

心通わせ、夢を育み、感謝あふれる学校

【目指す学校像】

- 挨拶と笑顔のあふれる学校
- 安心・安全な学校
- 信頼される学校

【教育目標】

『目指す児童像』

- ◎しっかり考える子
- 仲良くする子
- すすんで取り組む子

【目指す教師像】

- 深い愛情と使命感にあふれ、自ら模範となって協力し合える教師

学習に向かう3つの構え…「身構え・心構え・物構え」

相手を尊重、自分磨き…「時を守り、場を清め、礼を正す」

3 令和5年度の学校経営方針を達成するための取組と具体的な方策

(1) 豊かな心の育成

「人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付けさせる」

- ① 人権尊重の精神を基調にし、人や自然との多様な関わりを通して、自他の「いのち」を尊重する態度を育む。「思いやりシート」の活用や「なかよし川柳」の取組を通して児童の人権意識を高め、心の通う対人関係の素地を養い、人権尊重教育を推進する。
- ② 道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てるため、「特別の教科道徳」の授業を要とする教育活動全体を通して、道徳授業の充実を図る。
- ③ 相手を思いやり、自分からの気持ちのいい挨拶や正しい言葉遣いができるよう指導する。また、教職員が率先し垂範するとともに具体的な場面を想定した指導をする。
- ④ 教職員の人権感覚を磨き、児童に模範を示すことができるよう「人権教育プログラム」や「みずほあったか先生」を活用した人権教育研修を毎学期1回以上推進する。

(2) 学びの構えの育成

「3つの構えの徹底を通し、学習規律と学習習慣を確立させる」

- ① 学習に向かう3つの構え「身構え・心構え・物構え」の指導を徹底し、話の聴き方や座り方などの基本姿勢を身に付けさせる。
- ② 児童が自ら「～たい」と思えるような「主体的な学び」の指導方法を工夫し、**学びに火をつける**。
- ③ 授業の始・終の挨拶と学習時間を守った授業展開を進め、学習規律の徹底を図る。
- ④ 「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭学習の進め方や困ったときの対応方法を身に付けさせ、意欲的な宿題への取組を徹底させる。
- ⑤ 放課後学習「学びのテーマパーク」を3年生以上で実施する。自ら課題を設定し、自主学習や調べ学習に意欲的に取り組ませ、児童の学びに向かう力を育成する。
- ⑥ 「学習の自立」（主体的な学習）を目指し、東京ベーシックドリルを活用して学習内容の定着や基礎・基本の徹底を図る。

(3) 確かな学力の向上

「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実を図り、授業改善を行う」

- ① 児童一人一人の実態に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」を通し、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ③ 「**しっかり考えさせる課題**」を与え、自分の考えが認められる授業展開を工夫し、自己肯定感を高める。1単位時間のめあてとゴールを明確にし、**多様な考え方を引き出す授業改善**に取り組む。
- ④ 児童のつまずきの早期発見のため、習熟度別算数指導を第2学年から5学年で実施する。学力格差解消に向けた授業改善を行い、個に応じた指導を通して学力の向上を図る。朝学習や放課後のパワーアップタイムにおける複数教員での基礎・基本の学習指導を通し、児童一人一人の学習内容の定着を図る。
- ⑤ 一人一人に合った多様な学びと学び方の工夫、言語活動の充実、GIGAスクール構想の実現に伴う一人一台端末の活用を通じて、「できる楽しさ」「分かる楽しさ」「認められる楽しさ」を味わわせる。

(4) 健やかな体の育成

「健康や安全に気を付け、積極的に体力を高めようとする児童を育成する」

- ① 体力調査の結果を活用しながら一学級一実践（持久走、縄跳び、鉄棒等）を実施し、仲間と協力することを通して児童の体力・気力、運動能力の向上を図る。

- ② 学期に1回のスポーツ週間「瑞四運動ウィーク」を実施し、運動する機会や運動経験を増やし、運動への意欲の向上、最後までやりぬく気力の醸成、達成感、成就感を味わわせる。
- ③ 年間を通し「早寝、早起き、朝ご飯」の取組を継続するとともに、感染症予防や食育指導、睡眠、歯磨き等、自身の身体の健康に関する保健指導を年間通して実施する。

(5) 特別支援教育の推進

「児童一人一人を大切にした特別支援教育と相談体制の充実を図る」

- ① 特別支援教室による指導を生かし、障がいがある人への理解を深め、差別や偏見を見逃さない人権教育を行う。また、ユニバーサルデザインに基づいた指導や学習環境の整備等の工夫を通常の学級でも活用する。
- ② 連携型個別指導計画・学校生活支援シートを作成・活用し、特別支援コーディネーターを中心に特別支援委員会において実施状況と方針の確認を行い、一貫性のある支援・指導をする。
- ③ 特別支援教室専門員、町専任相談員や都スクールカウンセラー、家庭と子どもの支援員等と連携し、校内の相談体制の充実を図る。また、各関係機関と連携して児童の行動観察や担任支援を行い日常の指導に生かすとともに、特別な支援が必要な児童の豊かな学びにつながる個に応じた指導を工夫する。
- ④ 情緒固定学級開設に向けた準備を計画的に行う。

(6) 生活指導の充実

「組織的で計画的な生活指導を通し、安心・安全な学校を目指す」

「時を守り、場を清め、礼を正す」

- ① 相手を尊重し、自分の心を磨き、関係を良くして心を開くことができるよう、
「時を守り、場を清め、礼を正す」ことを継続的に指導する。
 - ・時を守る… 時間を守ることで、相手を尊重することにつながる。そして、自分自身の信用を積み重ねていくことができる。時間前に姿勢を正し、心を静め開始を待つ。
 - ・場を清める… 掃除をすることで「気付く」「心を磨く」「謙虚になる」「感動の心を育む」「感謝の心がめばえる」自分の心を磨き広く深く豊かにしていくことにつながる。
 - ・礼を正す… 挨拶や返事をするすることで、相手に心を開き、人間関係が良くなる。
※つまり「時を守り、場を清め、礼を正す」とは、人を大切にし、自分を高め、関係を良くしていくことである。
- ② 感染症の予防・感染拡大防止とともに、基本的な生活習慣の確立のため、全校朝会で生活目標の意識付け、各学級で生活目標の振り返りを行う。
- ③ 全校児童を全教職員で見守り、「四小のきまり」や「四小生活指導の手引き」を活用して社会性や規範意識を身に付けさせ、一貫性のある生活指導を実践する。
- ④ 児童自らが安心・安全について考え、行動できるよう安全教育の充実（日常安全、交通安全、災害安全）を図り、危機管理能力を育成する。
- ⑤ いじめ問題対策委員会や不登校対策委員会を定期的に関き、情報を共有するとともに、方針の見直しや組織的な確認を行い、「迅速・的確・誠実」に対応することで、未然防止と早期発見・早期対応に努め、安心できる学校づくりを推進する。
- ⑥ スクールカウンセラーや町専任相談員、家庭と子供の支援員や各関係機関と組織的な連携及び居場所づくりによる別室指導の充実を図る。また、児童や保護者の心理的な安定や生活改善を図り、児童が安心して相談できる体制作りを推進する。
- ⑦ 週1回の生活指導夕会を活用しながら生活指導上の問題や指導上の配慮事項等を

共有する。「報告・連絡・相談・記録」を徹底し、組織的、計画的な指導や対応を
実践する。

(7) 研究・研修の充実

「教師としての資質・能力の向上を目指す」

- ① 校内研究において「主体的に学ぶ児童を育てる指導の工夫」を実践し、算数科を通して効果的な指導法について研究を深め、授業改善を図る。
- ② 教員の得意分野を広める効果的なOJT研修会を月に1回実施する。また、学期に1回以上互いの授業を見合う機会を設定し、指導力の向上を図る。
- ③ 服務事故防止研修を学期に1回以上実施する。事故の未然防止に努め、教職員一人一人が意識を高くもち、自己の行動や習慣を振り返り自己点検する。事故に結びつくような行動については、互いに指摘し合うことができる職場の風土を築く。
- ④ 4～6学年においては、積極的に担任間で教科担当の工夫を行う。実態に応じた学年指導をすることで専門性を高め、授業準備の効率化を図る。また、一人の児童を複数の目で見ること、組織的な指導の充実を図る。
- ⑤ ワークシートなどのデータを決まった場所に保存し、次年度も使える環境を整備する。成果を蓄積することで、工夫した授業の共有化を図る。

(8) 特色ある教育活動

「児童が四小の良さを自覚し、自信をもって生きるようにする」

- ① ふるさと学習「みずほ学」を通して「知る」学び、「関わる」学び、「実践する」学びを深めるとともに、理想とする瑞穂町の未来を構想する「創る」喜びを通して、子供たちが夢や希望をもって主体的に社会に貢献できる資質、能力を育成する。
- ② 縦割り班活動「ハピクロタイム」を活用した年間の取組を通して異学年交流を進める。他者とのかかわり合いの楽しさを味わわせ、思いを言葉で表現する能力や態度、思いやる心を育成する。
- ③ 週1回朝読書（10分間）、学期1回読書週間（2週間）を設定し、読書活動を推進する。読書週間の取組、読書記録の作成、学校図書館の有効活用を通し、児童への読書意欲の喚起、読書量の増加、読書内容の充実を図ることで考える基盤となる言語環境を整え、豊かな言葉、温かな心を育む。
- ④ キャリア教育を生き方の重点とし、多様な関わりを通して、自分の将来に夢や希望をもち、その実現に向けて挑戦しようとする態度を育てる。

(9) 家庭と地域との連携

「開かれた学校、信頼される学校づくりに向けて家庭・地域との連携を図る」

- ① 地域の特色を生かしたふるさと学習「みずほ学」の活動を推進する。地域と連携し、四小のよさや地域のよさ、瑞穂町の歴史、産業、文化、伝統について調べ、自ら課題をもち、探究する力と郷土を愛する気持ちを培う。
- ② 「まちの先生リスト」や「四小地域人材リスト」を整備・活用し、瑞穂町に住む人々の活用と連携及び地域資源の活用を実践する。また、エコパーク、きらめき回廊、郷土資料館、リサイクルプラザ、地域の企業や地域の施設等に出かける学習、ゲストティーチャーを招いた地域を学ぶ学習を計画的に設定し、指導内容の充実を図る。
- ③ 積極的な教育活動の情報発信のため、学校HP「四小ブログ」を毎日更新する。また、毎月の学校・学年だよりの発行に加え、各学級・専科通信を月1回以上発行する。さらに、学期ごとの学校公開、PTA活動の促進、地域関係者を対象とした授業参観等を実施し、開かれた学校、信頼される学校づくりに向け地域・家庭との連携を図る。
- ④ PTAや地域、社会教育行事に積極的に参加することで、保護者が学校に求めていることや保護者の実態を理解するとともに学校の願いを伝え、相互理解を深める。



『心・夢・感謝』令和5年度 学校経営計画 概要版

瑞穂町立瑞穂第四小学校
校長 高橋 一広

心通わせ、夢を育み、感謝あふれる学校

- ①人とかかわり合っていく中で、心を通わせ、お互いを思いやること。
- ②「～したい」という夢や希望をもち、それに向かって挑戦していくこと。
- ③夢の実現のためには、全ての人に感謝の気持ちをもつこと。

【目指す学校像】

- 挨拶と笑顔のあふれる学校
- 安心・安全な学校
- 信頼される学校

【教育目標】

『目指す児童像』

- ◎しっかり考える子
- 仲良くする子
- すすんで取り組む子

【目指す教師像】

- 深い愛情と使命感にあふれ、自ら模範となって協力し合える教師

学習に向かう3つの構え…「身構え・心構え・物構え」

相手を尊重、自分磨き…「時を守り、場を清め、礼を正す」

多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図る。また、多様な考え方を引き出す授業に取り組み、「学びに火をつける」指導を意識的に行う。

☆令和5年度の学校経営方針を達成するための取組☆

(1) 豊かな心の育成

「人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付けさせる」

- ・気持ちのいい挨拶、言葉遣い
- ・「みずほあったか先生」

(2) 学びの構えの育成

「3つの構えの徹底を通し、学習規律と学習習慣を確立させる」「学びに火をつける」

- ・「～たい」という主体的学び
- ・「学びのテーマパーク」

(3) 確かな学力の向上

『「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図り、授業改善を行う』『しっかり考えさせる』

- ・実態に応じた「個別最適な学び」
- ・多様な考えを引き出す授業改善

(4) 健やかな体の育成

「健康や安全に気を付け、積極的に体力を高めようとする児童を育成する」

- ・体力、気力、運動の能力の向上
- ・感染防止と保健指導の充実

(5) 特別支援教育の推進

「児童一人一人を大切にされた特別支援教育と相談体制の充実を図る」

- ・ユニバーサルデザイン
- ・個に応じた指導の工夫

(6) 生活指導の充実

「組織的で計画的な生活指導を通し、安心・安全な学校を目指す」「時を守り、場を清め、礼を正す」

- ・危機管理能力の育成
- ・一貫性のある生活指導

(7) 研究・研修の充実

「教師としての資質・能力の向上を目指す」

- ・校内研究、OJT 研修
- ・担任間での教科担当の工夫
- ・工夫した授業の共有化

(8) 特色ある教育活動

「児童が四小の良さを自覚し、自信をもって生きようにする」

- ・ふるさと学習「みずほ学」
- ・縦割り班活動の実践

(9) 家庭と地域との連携

「開かれた学校、信頼される学校づくりに向けて家庭・地域との連携を図る」

- ・PTA 等の連携、四小ブログ